

9月定例会の一般質問から

誰もが安心して利用できる

歩道整備を

渡辺 道仁議員 (自民党)

**問** 市の交差点部は、国の基準により縁石の段差は2センチ以内として整備されているが、やさしさをはぐむ福祉のまちを目指すのであれば、車椅子を利用している方など交通弱者が、安心して利用できる歩道整備が必要と考える。

そこで、障がい者や高齢者の団体と行政・事業者が意見交換をするための協議会やネットワークを作り、これらの方々に現場で、早急に実験・体験していただき、これらの結果を市役所など公共施設の周辺の大きな交差点で、モデルケースとして導入しては、と考えるがどうか。

況もあることから、より安全な施設整備に向け、あらためて各種団体との意見交換を予定している。今後は、各種団体の意見を参考に、公共施設周辺の交差点でモデル整備を行うなど、市民の誰もが安全・快適に利用できる道路整備に努める。



▲シンボルロードの交差点

その他の質問項目

- ①市長の政治姿勢 (23年度中期財政計画、避難所における表示板及び案内板設置ほか)
- ②建設行政 (住宅政策)
- ③手足口病
- ④ごみ排出が困難な方へのごみ出し支援
- ⑤教育行政 (学校給食の安全確保、いじめに対する取り組み、暴力行為に対する取り組みほか)

小中一貫教育における

特別支援教育の取り組みは

舟本 肇議員 (維新の会)

**問** 24年度より、市内全校で小中一貫教育を実施することとなっているが、環境の変化やコミュニケーションが苦手な発達障がいなどの児童・生徒には、より一層の配慮が必要である。

そこで、特別な支援を必要とする児童生徒が、小学校から中学校への円滑な接続ができるよう、小中一貫教育での特別支援教育では、どのような取り組みを行うのか。

通常の学級における配慮の必要な児童生徒については、学校生活適応への一層の配慮が必要であることから、次の学年に引き継ぐべき事柄を明確にした「引継ぎシート」を作成し、小学校一年生から中学校三年生まで継続的に活用していくなど、指導の充実に努めていく。



**答**

特別支援学級では、これまで、小中学校を円滑に接続するため、合同で校外学習を行うなどの教育活動を展開してきた。また、学習については、発達の段階に応じて別々に編成しているカリキュラムに、さらに系統性を持たせるため、それらを統合した「特別支援学級用小中一貫教育カリキュラム」を現在作成しており、これを活用して小中学校の連携を深め、指導の充実に努めていく。

その他の質問項目

- ①企業誘致活動
- ②まちづくりと交通ネットワークの構築
- ③奈坪川改修と雨水排水対策
- ④災害時の情報伝達
- ⑤本市における橋りょうの安全の確認・確保並びに老朽化した橋りょうへの対応
- ⑥大型映像装置を活用したにぎわいの創出事業 ほか

放射線量の測定結果に対する対応は

今井 恭男議員 (市民連合)

**問** 放射線量の園庭・校庭の測定について、保育園など97台、幼稚園48台、小中学校109台、その他10台の合計264台を購入して順次配備し、各施設で活動の目安とするというが、その測定結果に対する判断は誰がするのか。

また、結果に対する公表・フォローや、情報の収集と一元化などについて、どのような体制を考えているのか。

また、結果に対する公表・フォローや、情報の収集と一元化などについては、災害対策本部内に「放射線等対策分科会」を設置したところであり、情報の集約化、一元化を図っている。

**答**

8月26日付け文部科学省・厚生労働省通知に基づき、災害対策本部において除染などの対策が必要な目安を、毎時1マイクロシーベルトを超えた場合とした。

この目安に基づき、各学校などの職員が測定し、目安を超えた場合には、災害対策本部の判断で除染などの対策を講じていく。また、結果に対する公表やフォローについては、市担当部局で取りまとめて、ホームページで一元的に公表し、逐次更新することにも、問い合わせについても対応していく。さらに、情報の収集と一元化などについては、災害対策本部内に「放射線等対策分科会」を設置したところであり、情報の集約化、一元化を図っている。



▲放射線測定の様子

その他の質問項目

- ①市長の政治姿勢 (災害時要援護者支援制度の対応状況と課題、地域力の向上策、市民協働のまちづくり)
- ②中期財政計画
- ③子どもの家(宮つ子ステーション、留守家庭児童会)の運営

※毎時1マイクロシーベルト…1時間あたりの空間放射線量の値。毎時1ミリシーベルトの1000分の1のこと。